

令和6年度 教科研修会 I に向けた授業の構想

音楽科

1 音楽科の研究テーマ

音楽表現を創意工夫する力を高める学習の在り方

2 音楽科として育成を目指す資質・能力の受け止め (研究テーマに示す力が高まっている生徒の具体的な姿)

- ・知識や技能を獲得し、自分なりに表現を工夫する姿 (1 学年、歌唱分野)
- ・知識や技能を獲得し、曲にふさわしい表現を工夫する姿 (2・3 学年、歌唱分野)
- ・知識や技能を獲得し、自分なりに表現を工夫する姿 (1 学年、器楽分野)
- ・知識や技能を獲得し、曲にふさわしい表現を工夫する姿 (2・3 学年、器楽分野)
- ・知識や技能を獲得し、自分なりに表現を工夫する姿 (1 学年、創作分野)
- ・知識や技能を獲得し、まとまりのある表現を工夫する姿 (2・3 学年、創作分野)

3 題材名・学年 「曲想の変化やパートの役割を理解して合唱しよう」・2年

4 題材の概要 (全3時間扱い 本時は第3時)

題材の学習問題

作詞者の願いが伝わるような表現とは、どのようなものだろう。

題材展開

時間	学習活動
第1時	<p>◆『翼をください』の歌詞の内容に関心をもち、表現したい意欲を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各パートの音を取り、合わせて歌えるように練習する。 ・歌詞の内容を確認し、作詞者の願いについて意見交換する。 <p>【題材の学習問題】 作詞者の願いが伝わるような表現とは、どのようなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対しての自分の考えを記入する。
第2時	<p>◆構成やテクスチュアの特徴について知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、どのように表現したいか思いや意図をもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ABCのそれぞれの曲想の違いが伴奏のリズムの変化や音の重なり方から生まれていることを捉える。 ・パートの役割 (主旋律、オブリガート、ハモリの旋律) について理解する。 <p>【題材の学習課題】 ABCの曲想の違いやパートの役割に着目して、表現を追求しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「翼をください」にふさわしい表現として、ABCそれぞれどのような工夫をしたいか、自分の考えを記入する。
第3時 (本時)	<p>◆創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音などの技能を身に付け、歌唱で表す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考えを共有し、実際に歌い試し、試行錯誤する中で、思いや意図を実際の歌唱表現で表すことのできるような技能を身に付け、合唱の表現を追求する。 ・題材の学習問題に対する自分の考えや題材を通して身についたことや今後を生かしていきたいことを振り返る。

音楽科学習指導案

令和6年5月15日(水) 5校時 音楽室

授業学級 2年C組(39名)

授業者 志賀 浩介

- 1 題材名 「曲想の変化やパートの役割を理解して合唱しよう」
- 2 主眼 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している
 作詞者の願いが伝わるような表現を考える場面で、曲想の変化やパートの役割に着目し、友が考えた表現方法について意見交換をしたり歌い試したりする活動を通して、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を身に付けて歌うことができる。【A(1) アイ(ア) ウ(ア)】
- 3 題材の学習問題：作詞者の願いが伝わるような表現とは、どのようなものだろう。
- 4 本時の位置(全3時間中 第3時)
 前時：曲想の変化やパートの役割を理解し、どのように表現するか思いや意図をもった。
- 5 展開

段階	活動	予想される生徒の反応	教師の指導・助言 評価	時間
導入	1 前時学習を振り返り、本時の見通しをもつ。	<p>題材の学習問題：作詞者の願いが伝わる表現とは、どのようなものだろう。</p> <p>題材の学習課題：曲想の変化やパートの役割に着目して、表現方法について友と意見交換したり歌い試したりしよう。</p> <p>ア この曲の歌詞には、今よりももっと自由で平和な世界になってほしいという作詞者の願いが込められていると思う。</p> <p>イ 前回の学習で、思いの高まりとともに次第に曲想が変化していき、サビの部分では3つのパートが重なり、伴奏も変化して意志の強さを表していた感じた。</p>	<p>・今までの学習を振り返り、作詞者の願いや曲想の変化、パートの役割について確認する。願いを伝えるための具体的な表現について考えるように促し、本時の学習の見通しをもてるようにする。</p>	8分
	2 友が考えた表現方法について意見交換をしたり歌い試したりする。	<p>ウ Bの部分から次第に気持ちが高まり、Cの部分で溢れ出すように、Bの部分の最後のクレシェンドを十分にかけて、Cの部分を厚みがあるハーモニーで歌っていきたい。</p> <p>エ 「つけてください」に入るところの息をしっかり吸って、クレシェンドをしたい。さらにCの部分からの大きさや厚みができるように、一つ一つの言葉をはっきりと固めに発音するイメージで、伴奏のリズムを感じながら歌っていききたい。</p> <p>オ 通して歌ってみると、クレシェンドや言葉の発音の仕方などの工夫により、気持ちの高まりが表現できた。Bの部分のオブリガートは、主旋律を引き立てる役割を意識して歌うことで、気持ちの高まりをさらに段階的に表せると思う。</p> <p>カ Bの部分のオブリガートの最初の方は、主旋律が引き立つようにバランスを意識しつつ、やさしい息遣いで歌い、後半は「白い翼」につながるように少しずつ盛り上げていききたい。</p>	<p>・生徒の考えが集約されたジャムボードの中から、ウのような意見を紹介し、友と歌い試したり、意見交換したりするように促す。</p> <p>・エのような意見について、全体で歌い試す場を設け、ふさわしい表現になっているか聴き役の生徒に考えるように促し、必要に応じて息のコントロールなどを助言する。</p> <p>・BCの部分を通して歌う場を設け、オのような意見を取り上げ、オブリガートの役割について確認し、この部分の歌い方について周囲の人と意見交換するように促す。</p> <p>・カのような意見を取り上げ、全体で歌い試す場を設ける。願いが伝わる表現になったか考えるように促し、必要に応じて息遣いを助言する。</p>	29分
展開	3 まとめの合唱をし、本時を振り返る。	<p>キ 通して歌ってみて、パートの役割を意識しつつ、クレシェンドや発音の仕方、息遣いなどの表現を追求したことでABCそれぞれの曲想の特徴が歌い方でも出せていて、平和を願う作詞者の思いが次第に高まり、溢れ出るような歌になってきたことを実感した。</p>	<p>・まとめの合唱をし、本時を振り返るよう促す。</p> <p>【創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能を身に付けて歌うことができる。(観察)】</p>	6分
	4 題材の学習を振り返る。	<p>ク 歌い方の工夫で、気持ちや願いなどが聞き手に伝わる表現になることを実感した。さらに、パートの役割を意識することでクレシェンドなどの表現がより効果的にできたので、今後の合唱に生かしていきたい。</p>	<p>・題材の学習問題に立ち振り返り振り返りを記入するように促す。</p> <p>・クのような記述を取り上げ、全体に紹介する。</p>	7分
終末				